

そわにえ Soigner

第25号

「Soigner (ソワニエ)」とは、
「世話をする・手当てする」という意味の
フランス語です。

2013年6月20日発行



発行/東京訪問看護ステーション協議会(責任者 嶋森好子)
〒135-0063 東京都江東区有明3-6-11 TFTビル東館9F
株式会社プロコムインターナショナル内
TEL:03-5520-8824 / FAX:03-5520-8820
http://www.tokyohoukan-st.jp

INDEX/

ぼん・くらーじゅ ……① ステーション紹介 ……⑥
アンケート結果 ……② 編集後記 ……⑧



立て替えられた歌舞伎座

期待する 精神訪問看護

梶原 徹(浜田クリニック)



私は台東区にある浜田クリニックの精神科医師です。今回、年末年始という医療福祉が過疎状況になる時期に緊急訪問看護をお願いして、頻回の訪問で何とか危機状況を切り抜けた経験をしました。その話を紹介します。

Aさん(60代)は、入院することなく30年近く当院に通院してきた方でした。これまでは父が生活上の援助をしたり、仕事も家業を一緒に行ったりして、キーパーソンとして支えていましたが、その父が怪我で歩けなくなり、Aさんが高齢の父の世話を始めました。それまでも時折混乱した思考を示して理解が困難になることもありましたが、周囲の支えや内服治療で、程なく回復していました。ところが今回は違いました。父のヘルパーに、「世話は自分がする」といい、積極的に活動的になったものの、まとまりを欠く行動が増え出しました。そうした中で、行き詰まりもあったのか、ヘルパーの前で父に粗暴な行動を取り、調理用の包丁で危険な振り舞いをし、ケアマネは「これは虐待である」と判断し区役所に通報しました。区役所は、Aさんに行き先は伝えず、両親を緊急ショートへ保護しました。その後、Aさんは両親が行

方不明である、死んだのか等と語り、状況が理解できませんでした。

2週間後にショートが終了して「急に」両親が帰宅したところ、Aさんはまた粗暴な行動を取りました。今度は措置で両親を特養に収容し、その後保健所、高齢福祉課、ご家族と私との話し合いがもたれました。両親を帰宅させるためにも今の病状ならばAさんを入院させてはどうかという意見も出ました。

しかし、Aさんのこれまでの経過、両親との関係など確認して、内服がきちんとできると思考もまとまりを取り戻すことを確認ののち、訪問看護で服薬確認をしてもらうことにしました。それが年末押し迫って、同時往診して訪問看護師を紹介して、休み中も訪問看護で服薬を確実にしたら年明けから落ち着きが見られるようになりました。

訪問看護や介護で訪問するとその家族にこれまで分からなかった障害を抱えた家族がいて、長い間ひっそりと暮らしてきたものの、それが虐待と判断されるような状況であったということはよく伺います。こうした時に家族間の相互理解とそれまでの家族関係と生活方法を踏まえた判断が求められるだろうと思います。こうした時にAさんのケースのように、緊急ショートよりも緊急訪問看護が唯一可能な対処方法でしょう。まだまだ精神訪問看護の有効性や、効果の確実性を解ってもらうのには時間が必要かもしれませんが、効果が大きいだけに期待するところも大です。

Bon Courage
ぼん・くらーじゅ